

読書活動の取組【亀岡市立本梅小学校】

1 実践研究のテーマ

「図書のある学校生活を支える学校図書館づくり」

2 学校の概況

本校は、亀岡市西部の自然豊かな本梅町にあり、児童数39名の小規模校である。令和4年には、創立150周年を迎え、地域とのつながりが深い。読書活動についても地域ボランティアと連携している。

本校の学校図書館は、校舎中央にあり、オープンスペースになっている。児童は、「ブックワールド」という名前呼び、いつでも利用することができる。楽しみとしての読書や図書を使った学習を支える場所として、児童の学校生活を豊かにする学校図書館を目指している。



3 実践内容

～本を手に取りたくなる環境づくり～

(1) 学校図書館の環境整備

情報 BOX (図書管理システム) による貸し出しシステムを利用するために、図書の情報登録を進めている。同時に古い図書の廃棄や修理、配架の見直しを行ってきた。季節に合わせて、児童の興味を引く掲示の工夫や今月の本コーナーのこまめな更新をしている。

図書を探しやすいように、分野ごとの配置場所を掲示している。「9文学」や絵本については、低学年・中学年・高学年という対象学年ごとに五十音順に配架してある。また、各学年の国語科の教科書に紹介されている図書を集めた「学年の棚」を設置している。外国語の図書、京都・亀岡の歴史や地理に関する図書は、専用の棚を作っている。子ども新聞を廊下から目につきやすい場所に配置している。

年に1回、全校児童と教職員による選書会を実施し、新しく購入する本の参考としている。



(2) 図書についての情報発信

図書便り「ようこそ!ブックワールドへ」を発行し、学校図書館についての情報を児童や保護者に発信している。

NO.1 (5月)・・・図書館使用のルールや開館時間などのお知らせ

NO.2 (9月)・・・新しく購入した図書のお知らせ

No.3 (12月)・・・冬休みにおすすめする図書のお知らせ

No.4 (3月)・・・今年度の読書や貸し出しについての振り返り

～授業で本を使いやすい体制づくり～

(1) 学校図書館の授業活用について

各学年の担任と連携して国語、理科、社会などの学習に使う図書を教室へ届けている。タブレットによる調べ学習と合わせて、図書を使って調べる機会も確保できるように配慮している。また、学校図書館にコーナーを作り、授業で読んだ物語と同じ作者の本や関連する内容の本を置いて学習を広げるようにしている。



(2) 図書を使った教科指導の支援

令和4年度は、学年担任と司書教諭、学校司書で連携し、読書感想文の指導を行った。司書教諭や学校司書が、課題図書の紹介や読み聞かせ、図書を選ぶ際にアドバイスした。

5年生国語科の「図書館を使いこなそう」では、学年担任と司書教諭、学校司書で連携した授業づくりを行った。日本十進分類法についての説明やテーマを決めての図書探しなど、図書に関する知識を教える場面を、司書教諭や学校司書が担当した。



読書を楽しむきっかけづくり～

(1) 読書の時間の確保

全校で朝読書（月曜日・木曜日の8時30分から40分）の時間を設定している。また、金曜日は「フレンドリーブックの日」として学校図書館で本を借りて、週末に家庭で読書をするように呼びかけている。

(2) 読み聞かせボランティア、読書指導員による読み聞かせ

読み聞かせボランティア「ぼちぼち」のメンバーが、朝読書の時間に毎月読み聞かせを行っている。また、七夕や節分など季節の本の読み聞かせを行うイベントを実施している。

読書指導員が週に1、2回来校して、1・2年生を対象に下校前の待機時間に読み聞かせや本の貸し出しを行っている。



(3) 読書への意識づけ

「読書の記録」として、児童が1年間に借りた本のリストを配布し、自分の読書を振り返るきっかけとなるようにした。読書感想文の図書選びや国語科での本の紹介をする学習でも、「読書の記録」を活用することを期待している。

児童による図書掲示委員会の活動を通して、児童同士で読書の楽しさを広げるようにしている。令和4年度は、「貸し出しランキングの発表・表彰」「〇年生向けのおすすめの本コーナー」「先生のおすすめ本の紹介」「本梅創作お話コンテスト」などを児童が企画し、読書に親しむきっかけになった。



4 成果と課題

(1) 成果

今年度から学校司書が配置されたことにより、司書教諭や読書指導員と連携して学校図書館の環境整備や学習に使う図書の準備などをしやすくなった。学年担任の教員から図書についての相談や依頼を受ける回数が増え、授業での図書の活用は進んでいる。

1年生、2年生を中心に、朝休みに学校図書館で貸し出しを行う児童が増えた。低学年は、教室の目の前に学校図書館があり、友だちと一緒に本を借りに行くことが習慣になっているようである。

読書感想文や子ども読書本のしおりコンテスト、図書掲示委員会の企画など全校児童を対象に読書を意識する機会をつくることができた。児童が主体となって取り組む活動では、普段はあまり読書をしない児童も図書に触れることができた。

(2) 課題

調べ学習用の図書は情報が古くなり、学習に適していない場合があった。計画的な廃棄や購入をしていく。また、児童にタブレット端末が支給されたことで調べ学習にインターネットを利用することが増え、図書を使って調べる機会が減っている。児童の学習用に編集された図書や歴史漫画など、学習に役立つ図書の紹介をして、インターネットと図書の両方を使って調べる指導を行っていきたい。